

「当たり前前」のことを 当たり前前「にやりたい」 人を第一に想い、 関わる人がみんな笑顔になる 派遣会社。

創業20年、登録社員数約1000名。にも関わらず、
「人」への想いは創業した時から何ら変わらぬスタンスを貫く同社。



他社所属の派遣スタッフからの
移籍希望が引きもきらない
同社の魅力を探るべく、
フリーアナウンサーの
室田智美さんが訪問し、
お話を伺った。

— 以前もこのビルで勤務されていた?

もともと下の4Fフロアで、滋賀県本社の派遣会社に勤めていました。当時は北海道の人を面接して本州にその人材を送る、という仕事だったんですが、だんだん人も集まらなくなってきた。もともと、じっとしている性分でもないし、暇で歩き回っていたんですね。

— それは上司に報告するでもなく?

はい。「このくらいのことなら出来るのかな」と、ちょっと頭の中に思い描くことがあったりして、というのも、面接に来られた方が「出来れば、道内にとどまりたい。札幌で仕事がいい」とか、本州での仕事を終えて戻ってきた方も「こっちでの仕事はないですか」という方もいらっしゃったんです。そういう声にこたえたい、というわけでもないのですが、「本社が出来るなら(こっちでも)出来るだろう」というの勢いでやっている中で、取引先が「二つと、できていたんです。それがこの会社のスタートと言えばスタートなんですよ。」

— 何年くらい前ですか?

15〜6年前前でしょうかね。この下(4F)にいたのが3年間くらい。その時にこのビルのオーナーと仲良くさせていただいて、今度自分で会社を始めるといことをオーナーに相談したら格安で貸していただけたんです。またかつての取引先も「会社として成り立ってれば構わないので、本社との関係をこの際断つて、あなたとやっていきましょう!」と、僕を認めてくださったところが何か所がありました。そこから始まりですね。でもそうやって札幌に戻ってきたとき、かつて一緒に働いていたスタッフが、安心してくれたのも、よかったなあ。って、僕が抜けた後、本社から新しい所長がやってきたもの、なかなか僕が思うのとやり方が違うし、僕自身「派遣はこうやっていくべきだ」「こんな風に展開をはかるべきだ」という思いが自分の中にあっただので、そこは、本社ともぶつかる部分がたくさんあったんです。

— 加藤さんが一番大事にしていることは何ですか?

働く人あつての会社だと思っんです。特に派遣会社は人がいてこそ。社員にもよく話すが、お前らがいても仕事にはならない、と。これは言い過ぎですけどね。社員よりもスタッフが大事だし、スタッフが額に汗に働いてくれて、初めて会社の売り上げに繋がるのであり、それがなかったらみんなの給料も払えない。僕らも食べていけない。ならばどこに一番重きを置くかと言えば、働いてくださる方々です。その方々をどれだけ大事に出来るかが、最優先。もちろん待遇もそうですが、やっぱり、働きやすい環境を作ることが僕らの仕事かなって思っんです。

— 当時いらしたスタッフさんは一緒に辞めるような形に?

そうですね。角が立つような辞め方は困るので、ちゃんと取引先に辞めることをお話してもらって、所属していた派遣会社さんにも退職届を提出してもらいました。その上で取引先の方からの要請を受けて、エージェントのスタッフとして働いてもらいました。でもこれは取引先が僕を信用してくれないと出来ないことだし、何よりそこで働いていたスタッフも、本当社にも先給料がもらえるのか?と不安ながらも信用してくれたことが大きかったですね。

— 当時何人いらしたんですか?

20数名いましたかね。その取引先は、ちゃんと派遣料を払っていただけきちんとした会社でしたから、潰れることはないと思いましたが。また今やっている業務をそのまま引き継ぐことになったので、取引先にとってもそこで働くスタッフにとっても、僕にとってもいいことだったんだらうな、とお客様で、そうやって助けていたっている企業がいっぱいあります。当時から今もお残っているスタッフもいます。当然いろいろなところに行ったりする場合も多いですが、やっぱりそういう方々に支えられたことまで来ているので、スタッフあつての僕らなのだ、今も実感するんです。

— 本当に「人」なんです。

生意気なことをいろいろな会社で言ってくるので、大分嫌われていますけれどね(苦笑)。でもそこで働く人があつての企業、とかく経営者の方は今は景気がいい時代ではないので、抑えるところは抑えなくてはいいけない。それともわかりますが、どうしても弱いところにしわ寄せがいくんですよ。出来るだけ人件費をかけないように、と。でも僕らこういう仕事をやっていると思うのは、「人あつてこそだ」と、そう考えると、そこにどれだけかけられるかが、企業の真価とまでは言いませんが、良い悪いを決めるではないか、と思っんです。

— 企業が抱える「人材」こそが、企業の一番の強みだと?

はい。なので、僕らもそれなりの人材で協力していいこうと思って。僕はよく『配る』という言葉を使っていますが『目を配る』『心を配る』っていうのすごく大事! 敏感になつてあげること、つまりその人のことをどれだけ見てあげられるかですね。人って不思議なもので、気配り・目配りをするって、思いもよらない力を発揮することがあります。普通の人は普通に企業に勤めていても、10あるうち5も力を出さないと思っんです。でもそれが、「ここで働くことに生きがいを感じる」「楽しい」「嬉しい」という感情が付くと、7にも8にも9にもなる。」

株式会社 ジェイサポート

〒060-0807 札幌市北区北7条西4丁目8-3 北口ヨシヤビル8F
http://www.jsupport-ltd.com/

代表取締役 加藤 真一

夕張出身。本州本社の派遣会社にて札幌営業所所長を勤めながらも「人を大切にする」方向性が本社とたびたび衝突。その後、いったん北海道を離れるも父親の逝去をきっかけに札幌に戻る。かつての取引先や共に働いていたスタッフのご縁で新たな派遣会社として起業。

とがある。たくさん給料をあげれば喜ぶのかな、というところだけではありません。気配りや目配り、その人が今何を求めているのか、どういうことをしてあげたら本当に働きやすくなるのか、その環境や物とか設備だけではなく、「人」としてその人を、どつフォローしていくかということが、やっぱり大事なんです。また、派遣会社だからそこができることってたくさんあると思うんですが、ジェイサポートも、たくさん人を派遣していますが、この派遣先の従業員の方とも、当然僕らは仲良くなくて帰ってきます。すると「私も！」と、ほかの派遣会社からいらしたい。「私も！」と、ほかの派遣会社からいらしている方が言ってきたら、正直多いんです。

——そういう声を聞く？

やっぱり嬉しいですね。頼りにされているのか、当てにされているのか、便利に使われているのか、わかりませんが(苦笑)。決して社歴が古いわけではないので、取引先に派遣としては後に入るほうが多かったのですが、気づくと、その会社の20人の派遣スタッフが全員うち所属の人間になっていた、ということがこれまでの流れの中でたくさんあるの、やってきたこと、やっていることは間違いないのだ、と思っています。

同業他社さんにもたくさんあるのに、すごいことですよ！

僕は当たり前前のごとを当たり前前にもやりたい、それだけなんです。いろんな派遣会社さんがある、規模も、得意分野も。うちの会社はまたまだ小さくて、相談にいらっしゃる方も、本当に弱い方が多いんです。「私、60歳なんです」と電話して、「どうぞ面接に来てください」という企業を探すが難しい。ですが、うちは喜んでお受けするんです。いいんです！時間的な制約を受ける方も、喜んでお受けします。ただ100%受けられるかというと、難しい場合も多い。そのために、営業マンも一生懸命やっています。本当に困っている方のためですからね。特技があつて資格があつて……という方は、どこに登録してもすぐにお仕事があるんです。でも、そんな方は少数。僕は、本当に困っている方、現実問題、明日食べるお金もないかもしれない、ほんとに困っている方にも、お仕事を作つて、いってあげたいと思っています。

——仕事を作る？

仕事を作る、という言い方は大きいかもしれませんが、僕らは比較的、工場や倉庫、事務など、多ジャンルの中でも、単純作業を今日来て、明日から

すぐできる仕事をたくさん扱っています。そういう中で、高齢者も使っていくか、今になってはいけない。労働人口が減っていますから、今になって「70歳になっても働かなきゃ」という風潮になってきていますけれど、かつては60歳を過ぎたら働き口がほとんどなかった。でも今は、元氣だったら60でも70でもいじやないですか？ただそこに、負荷をかけてはいけないんですけどね。週5で8時間勤務は、企業として安全配慮に欠けているのではないかと、思っています。ならばこれからは、こういう働き方をいけばいいのでは、と企業に提案することもあります。取引先企業は「出来れば同じ方で」や「出来れば20代、出来れば女性で」と、とにかく言いたいことはたくさん言ってくるのですが、その際は「無理です」とはっきり企業にお断りします。それが無理ならうちではなくて、他の派遣会社さんで」とはっきり言います。「うちではこういうやり方で成功もしてきている」と具体的な提案をすることもあります。例えば年齢層の高い方はお仕事を辞めたりしますが、今の若い子たちはちょっとと、明日から来ない、ということもあります。ならば、この作業場の、この高さをすこしかえてみるのはどうでしょうか？そうすれば今まで30代の男性の方しかできなかった仕事が、50代・60代の女性の方でも出来るような取引先が変わると思うんです。それって、いろいろな取引先を見て、いろいろな働き方を見て知っている僕らだから気づくことで、大きなお世話ですけど、こんな風にしませんか、こういう風に変えたら労働力の確保になりますよと伝えます。言われるがままの派遣会社じゃなく、いろいろのことを言う派遣会社ですから、結構、嫌われていますよ(笑)。でも、いつかわかってくる、と信じています。



■インタビュー：室田智美(フリーアナウンサー)

スタッフに対する温かい想いが常にあふれている、それが実感できる対談でした。将来は幼稚園を作るとも語る加藤さん。微力ながら私もぜひ協力していきたいと思いました。貴重な出会いに感謝です。



自社のスタッフを守るために取引先から出入禁止を通達されることもある同社。派遣スタッフの誕生日にはお菓子を必ずプレゼントしたり、雪の多い日にはスタッフの業務終了前に車の雪下ろしや周辺の除雪を心がけたりと、常に「心」を配り続ける代表のスタンスがきっと、地道ながらも確実な成長につながることでしょう。今後の同社の発展にますます期待できます。